どうする？ 宮津の里山

2014年3月11日

株式会社 日本総合研究所 調査部 主席研究員
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

藻谷（もたに）浩介　kosuke@motani.com

宮津市で起きてきたこと

東日本震災前10年間の国勢調査の実数（国立社人研が未回答者分を補正）

市内在住者(外国人含む)：2000年→10年 △3,300人

60年で人口がゼロ！になるという、深刻なペースの減少

40年で現役世代がゼロ！になるという、過酷なペースの減少

		↓絶対数	↓増減	
0-14歳人口の増減：	2000年 3.3千人→2010年	2.3千人	△960人	△30%
15-64歳人口の増減：	2000年13.4千人→2010年	10.7千人	△2,700人	△20%
65歳以上の人口：	2000年 6.6千人→2010年	6.9千人	+360人	+5%
↑その中の75歳以上の人口：	2000年 3.0千人→2010年	4.0千人	+990人	+35%

関西二府四県で起きてきたこと

東日本震災前10年間の国勢調査の実数（国立社人研が未回答者分を補正）

二府四県内在住者（外国人含む）：2000年→10年 +4.8万人

まだ関西全体では人口が増加していた（大阪市のおかげ!?）

120年で現役世代がゼロ！になるという、急速なペースの減少

	↓絶対数	↓増減	
0-14歳人口の増減：2000年 3.0百万人→2010年	2.8百万人	△25万人	△8%
15-64歳人口の増減：2000年 14.4百万人→2010年	13.3百万人	△109万人	△8%
65歳以上の人口：2000年 3.4百万人→2010年	4.8百万人	+139万人	+41%
↑その中の75歳以上の人口：2000年 1.3百万人→2010年	2.2百万人	+83万人	+62%

首都圏一都三県で起きてきたこと

東日本震災前10年間の国勢調査の実数（国立社人研が未回答者分を補正）

首都圏内在住者（外国人含む）：2000年→10年 +220万人

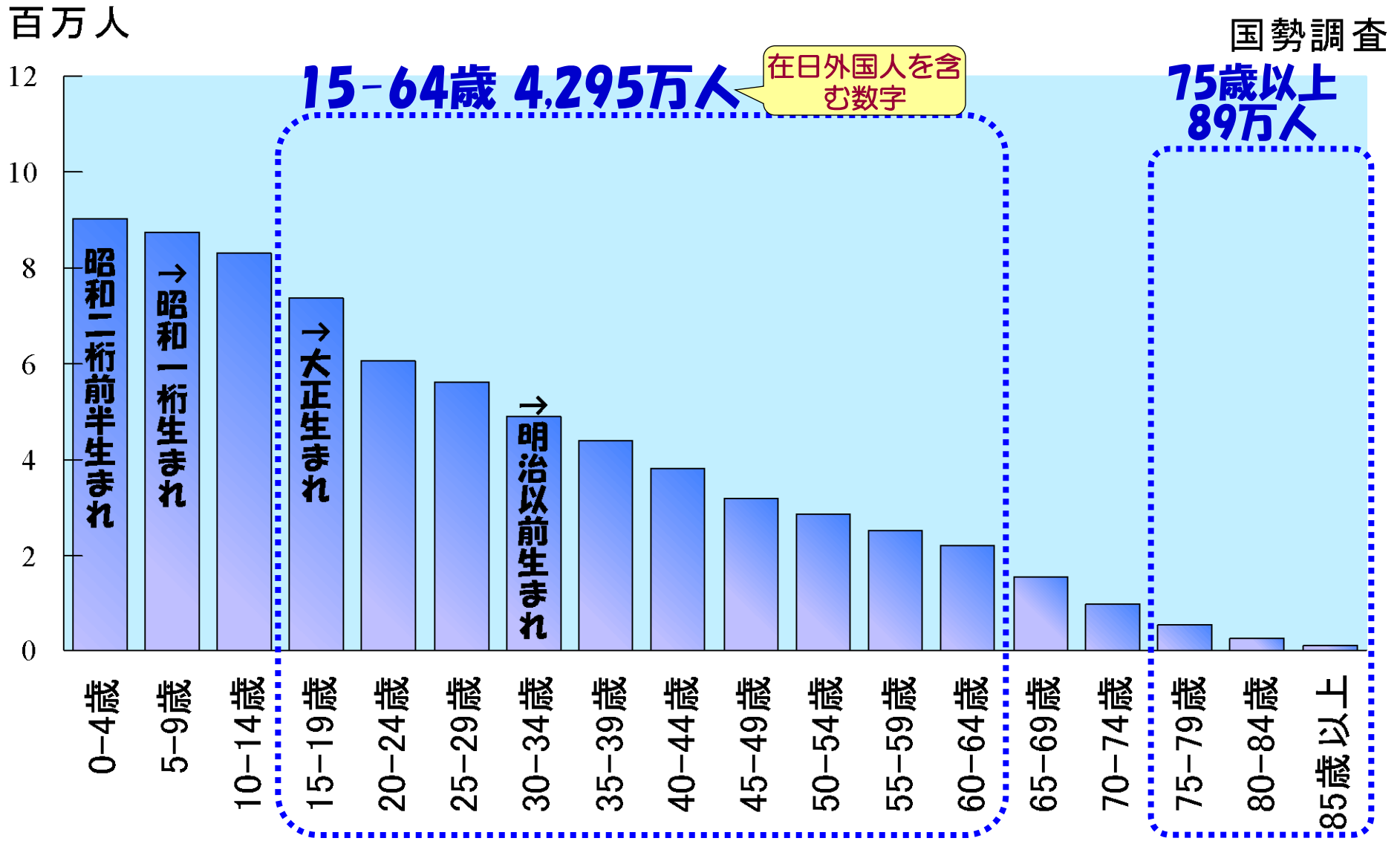
100年で人口1.5倍増のペースの順調な増加

実は現役世代も子供も減少しており、高齢者のみが急増していた…

	↓絶対数	↓増減	
0-14歳人口の増減：2000年 4.5百万人→2010年	4.4百万人	△4万人	△1%
15-64歳人口の増減：2000年 24.1百万人→2010年	23.9百万人	△19万人	△1%
65歳以上の人口：2000年 4.8百万人→2010年	7.3百万人	+251万人	+52%
↑その中の75歳以上の人口：2000年 1.8百万人→2010年	3.2百万人	+133万人	+72%

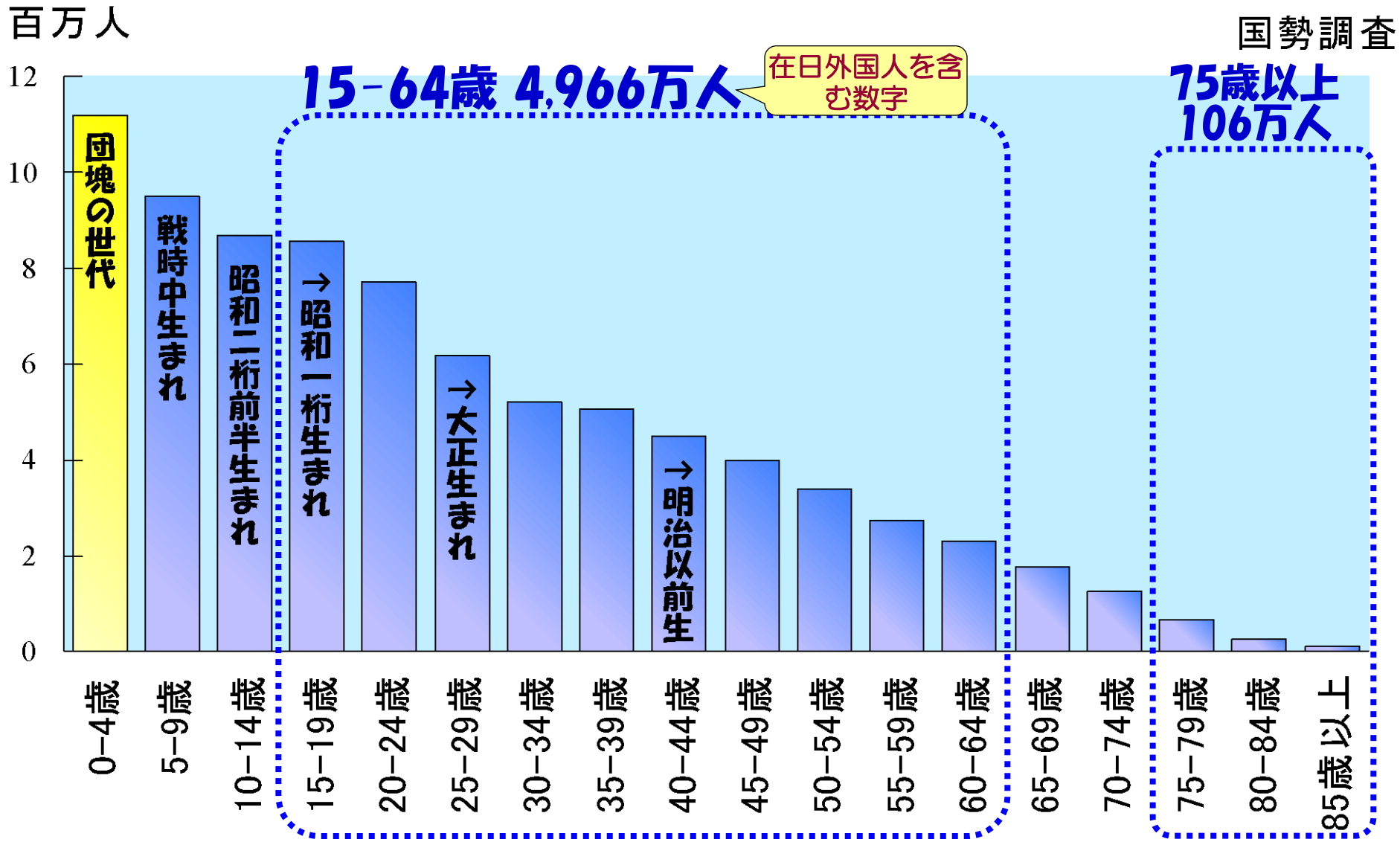
日米開戦前夜の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1940（S15）＝70年前



戦後復興の頃の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1950（S25）＝60年前



所得倍増計画の頃の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1960（S35）＝50年前

百万人

国勢調査

15-64歳 6,000万人

在日外国人を含む数字

75歳以上 163万人

12
10
8
6
4
2
0

団塊の世代

←個人主義世代

戦時中生まれ

昭和二桁前半生まれ

→昭和一桁生まれ

→大正生まれ

→明治以前生

0-4歳
5-9歳
10-14歳
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

大阪万博の頃の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1970（S45）＝40年前

百万人

国勢調査

15-64歳 7,157万人

在日外国人を含む数字

75歳以上 221万人

12
10
8
6
4
2
0

←個人主義世代
団塊の世代
戦時中生まれ
昭和二桁前半生まれ
→昭和一桁生まれ
→大正生まれ
→明治以前生

0-4歳
5-9歳
10-14歳
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

安定成長移行期の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1980（S55）＝30年前

百万人

国勢調査

15-64歳 7,883万人

在日外国人を含む数字

75歳以上 366万人

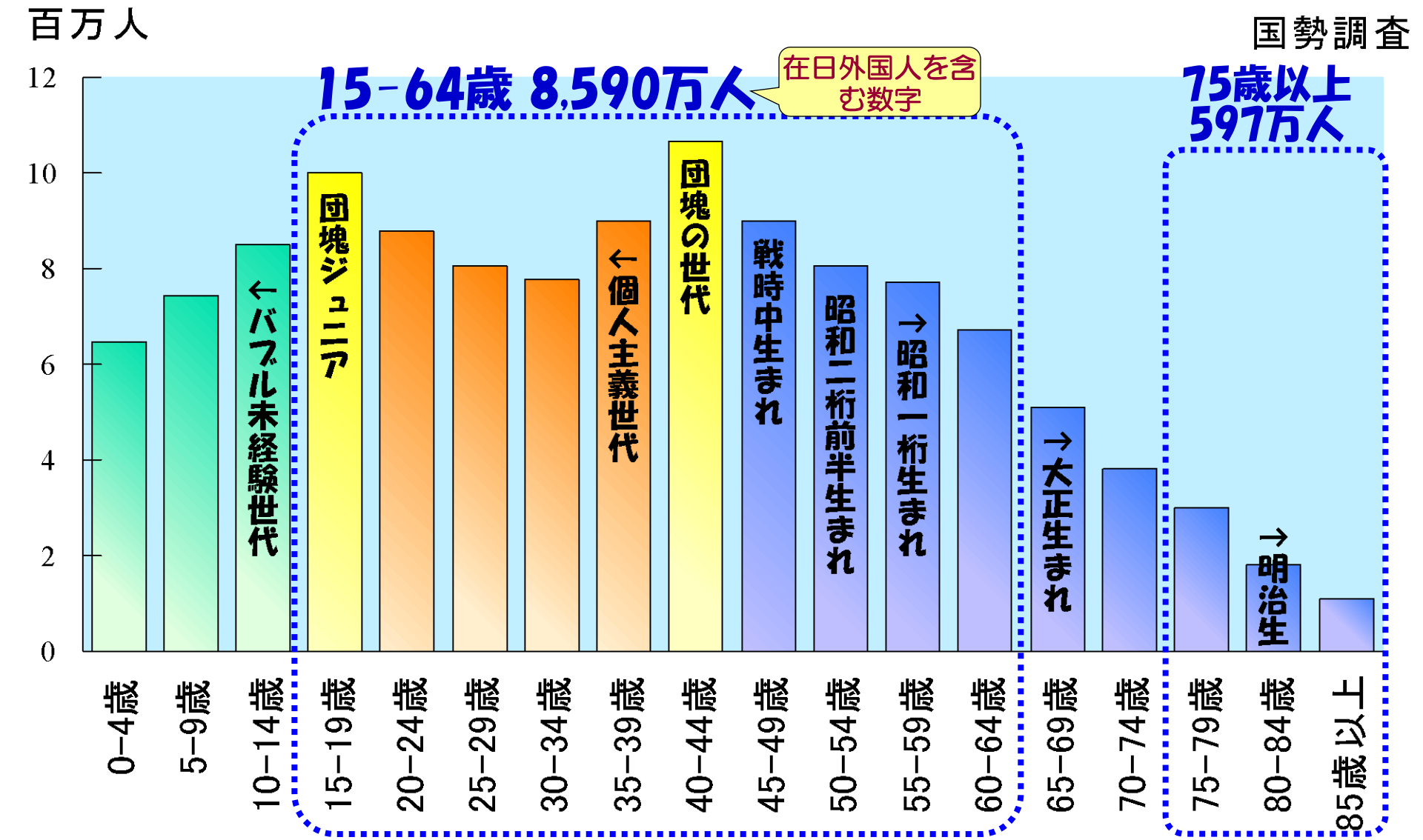
12
10
8
6
4
2
0

←バブル未経験世代
団塊ジュニア
←個人主義世代
団塊の世代
戦時中生まれ
昭和二桁前半生まれ
→昭和一桁生まれ
→大正生まれ
→明治生

0-4歳
5-9歳
10-14歳
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

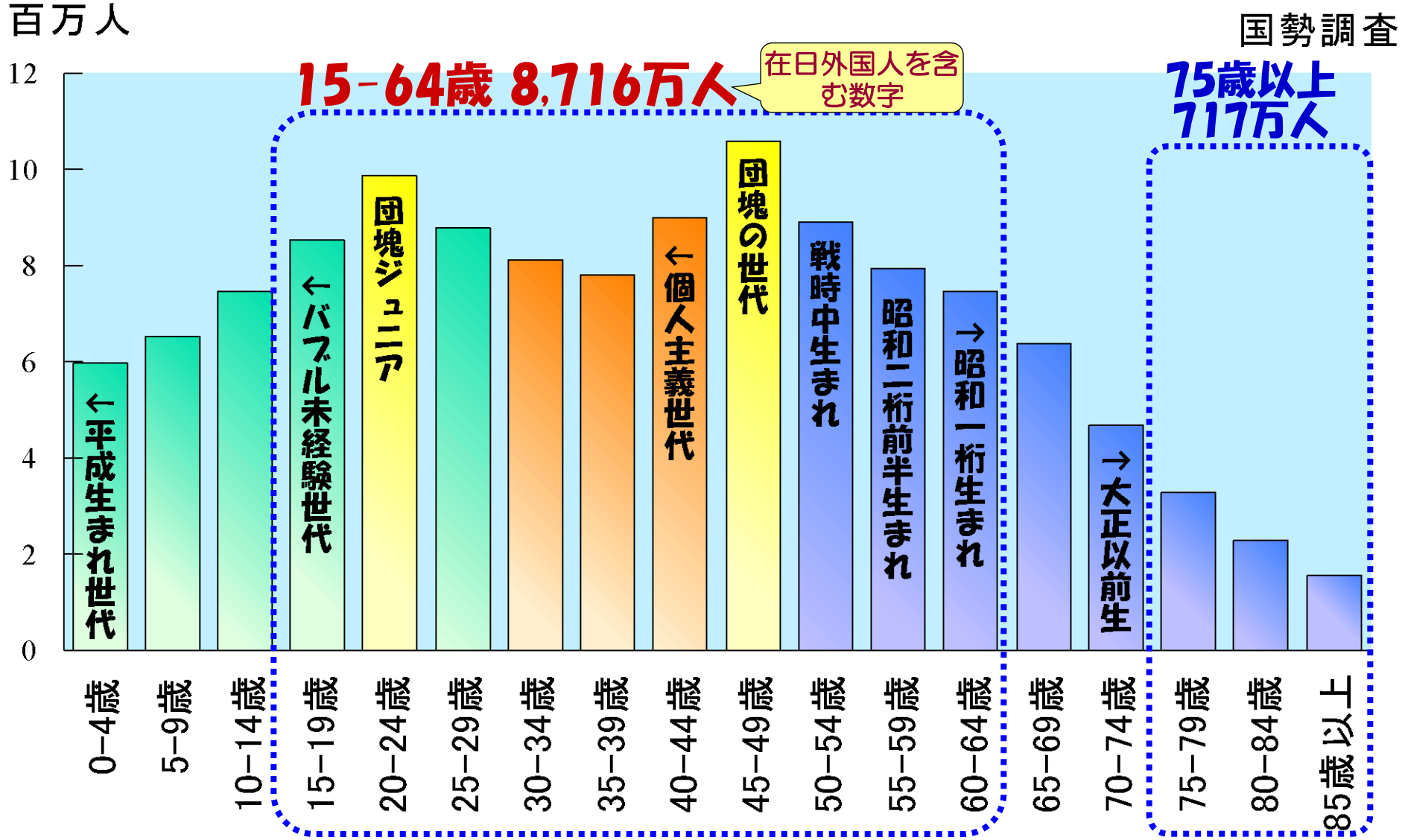
バブル最盛期の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1990（H2）＝20年前



阪神大震災の頃の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：1995（H7）＝15年前

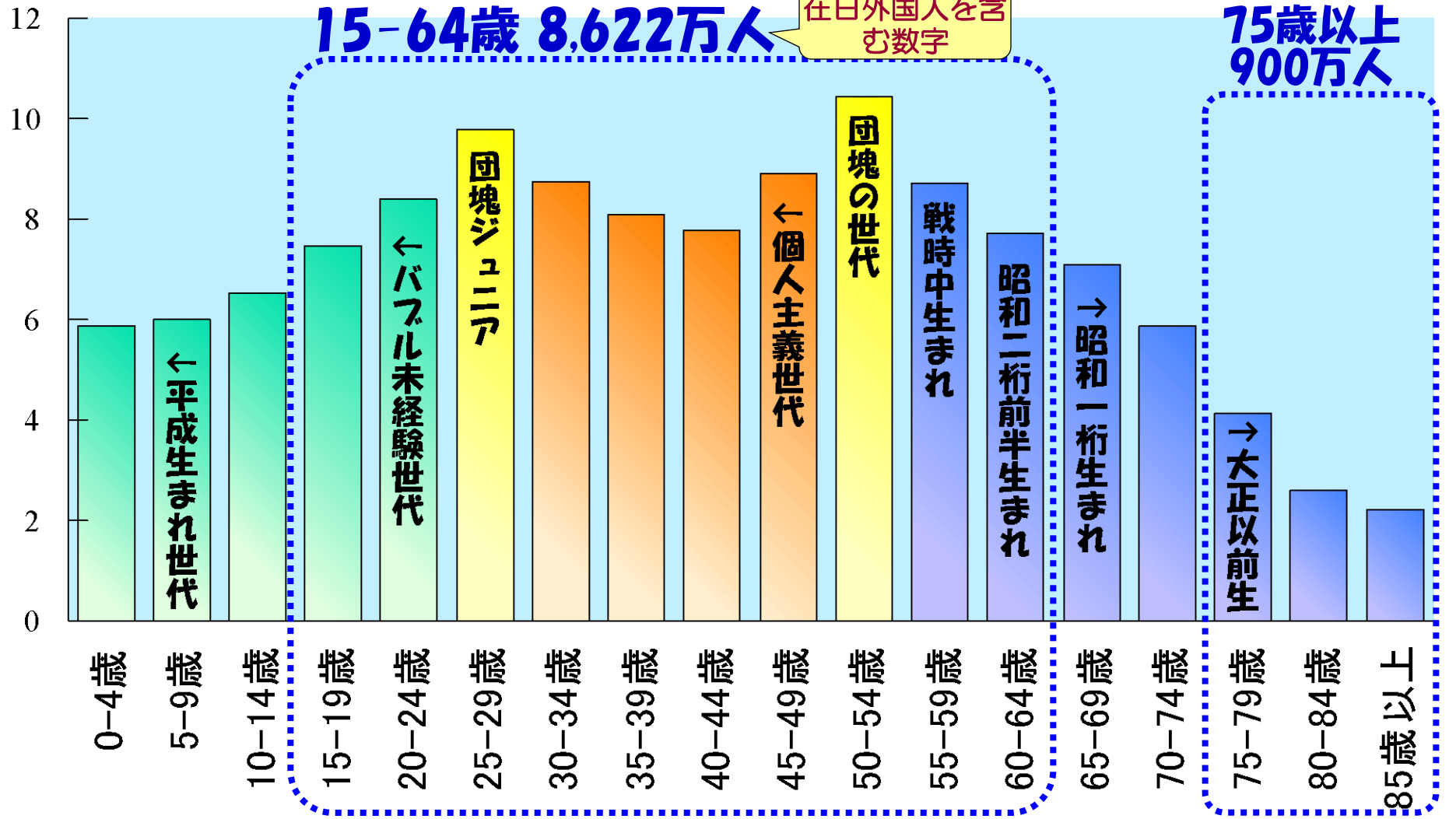


2000年問題の頃の日本在住者

何歳の人口が多かったのか：2000（H12）＝10年前

百万人

国勢調査

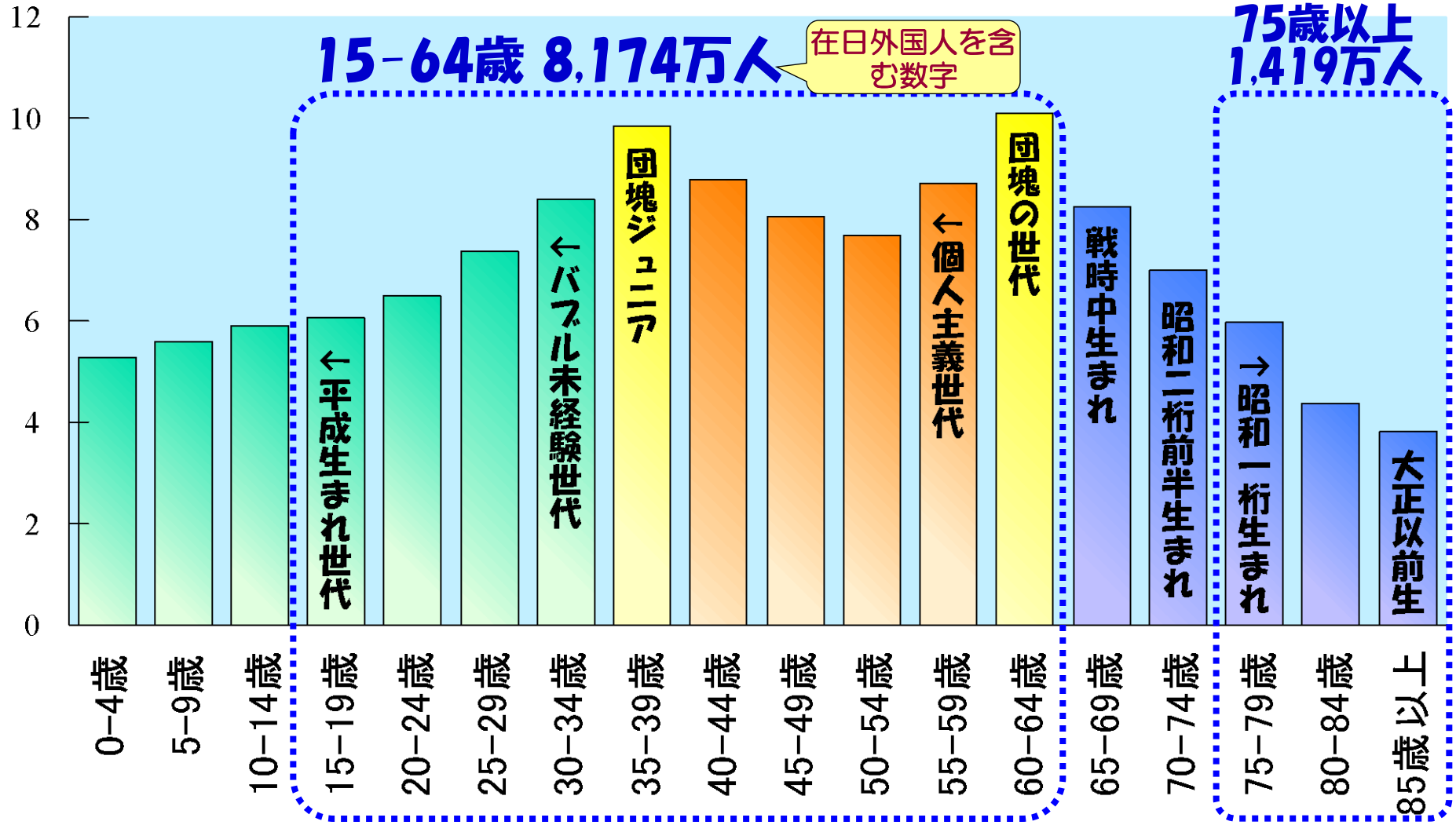


現在の日本在住者

何歳の人口が多いのか:2010＝現在

百万人

国勢調査結果を国立社会保障･人口問題研究所が補

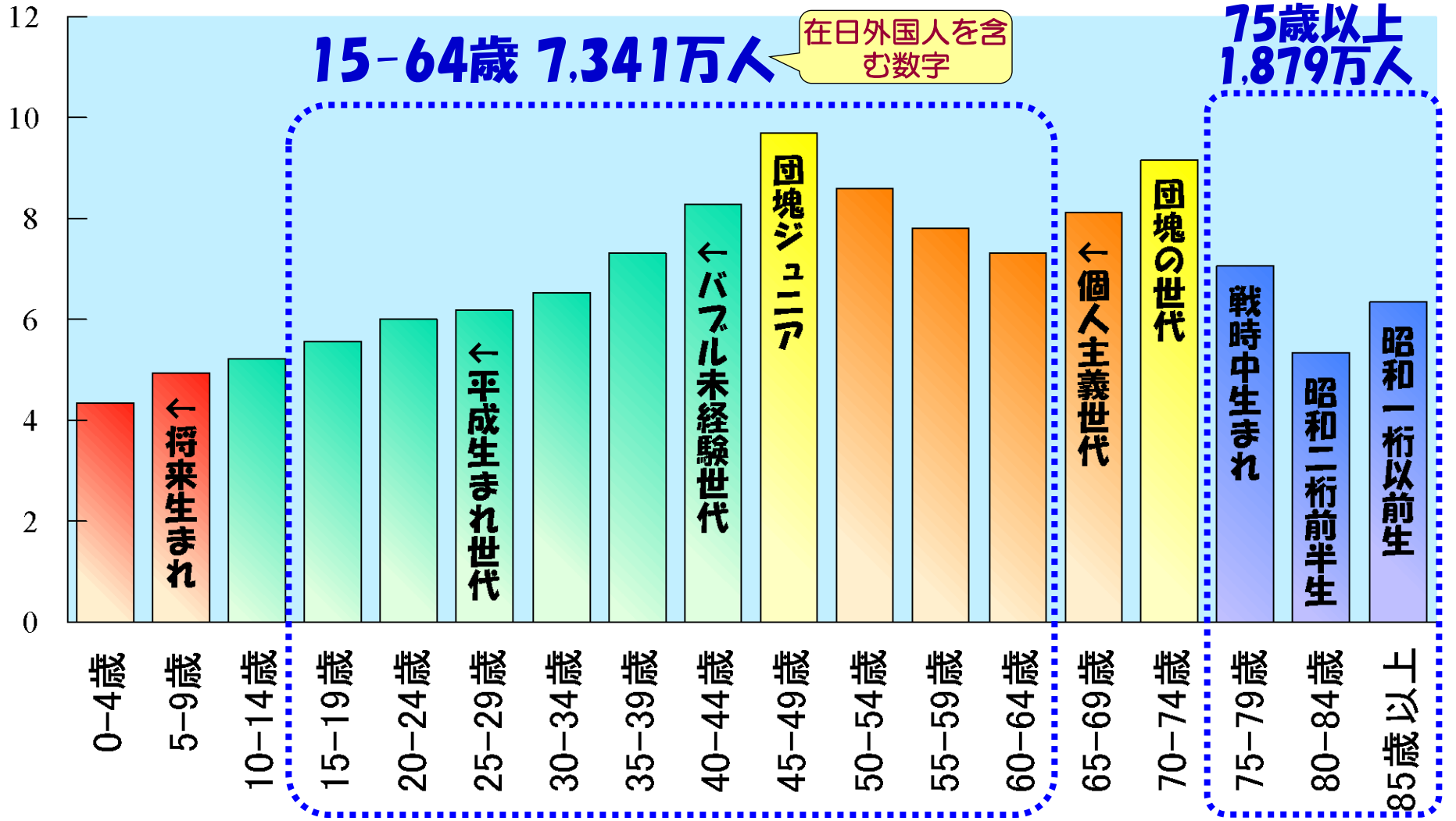


10年後の日本在住者

何歳の人口が多くなるのか：2020＝10年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改

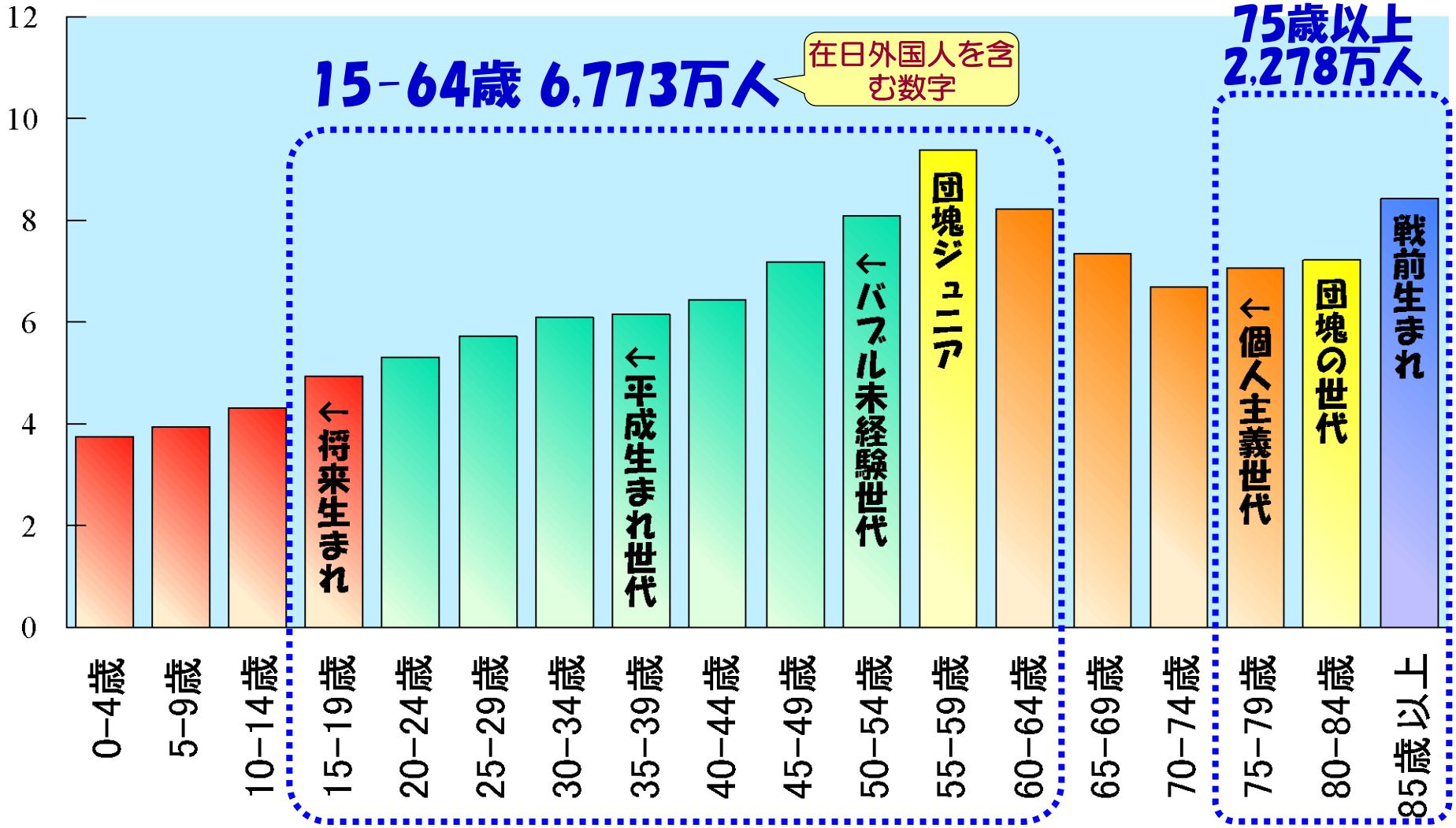


20年後の日本在住者

何歳の人口が多くなるのか：2030＝20年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改

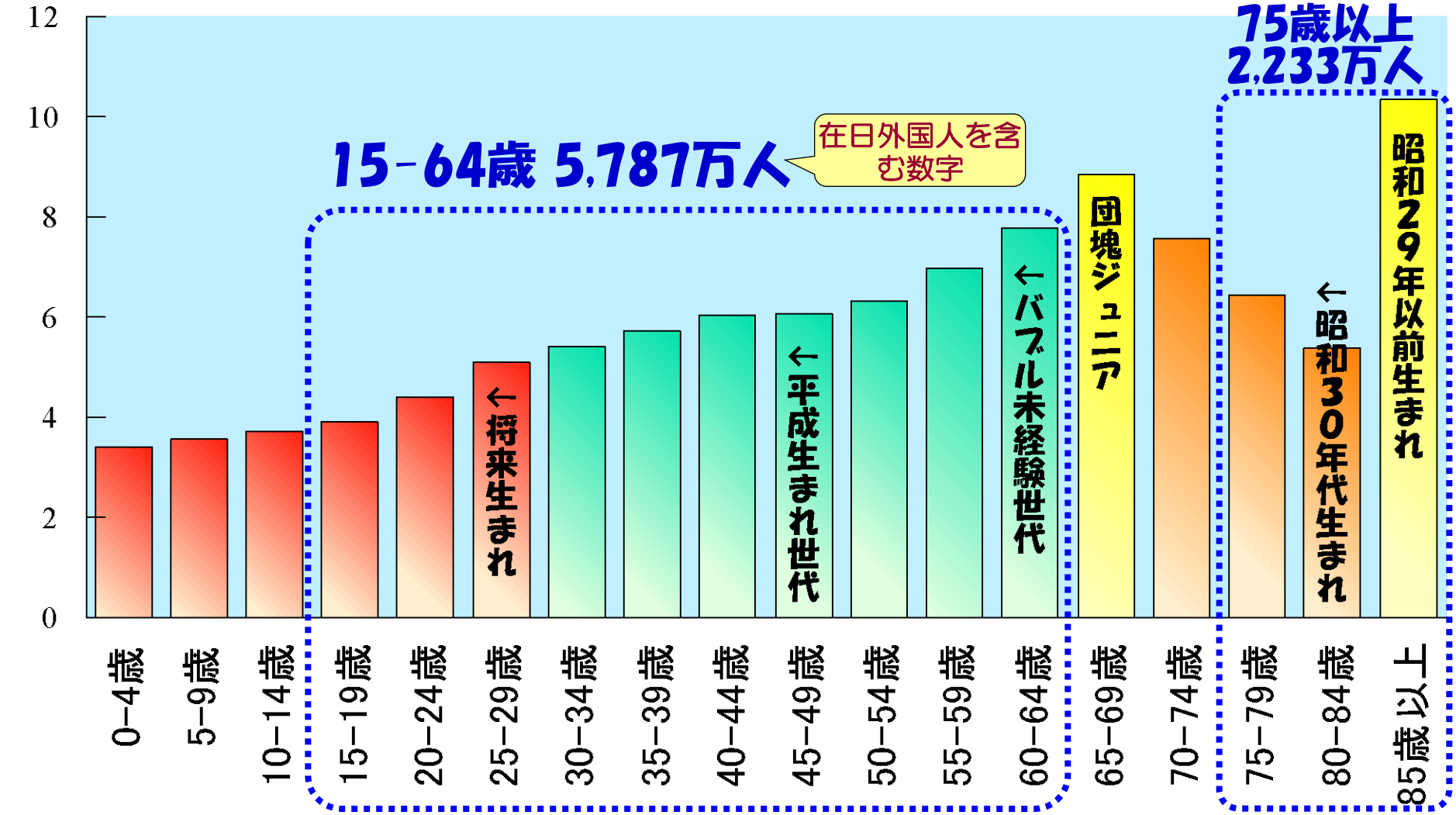


30年後の日本在住者

何歳の人口が多くなるのか：2040＝30年後

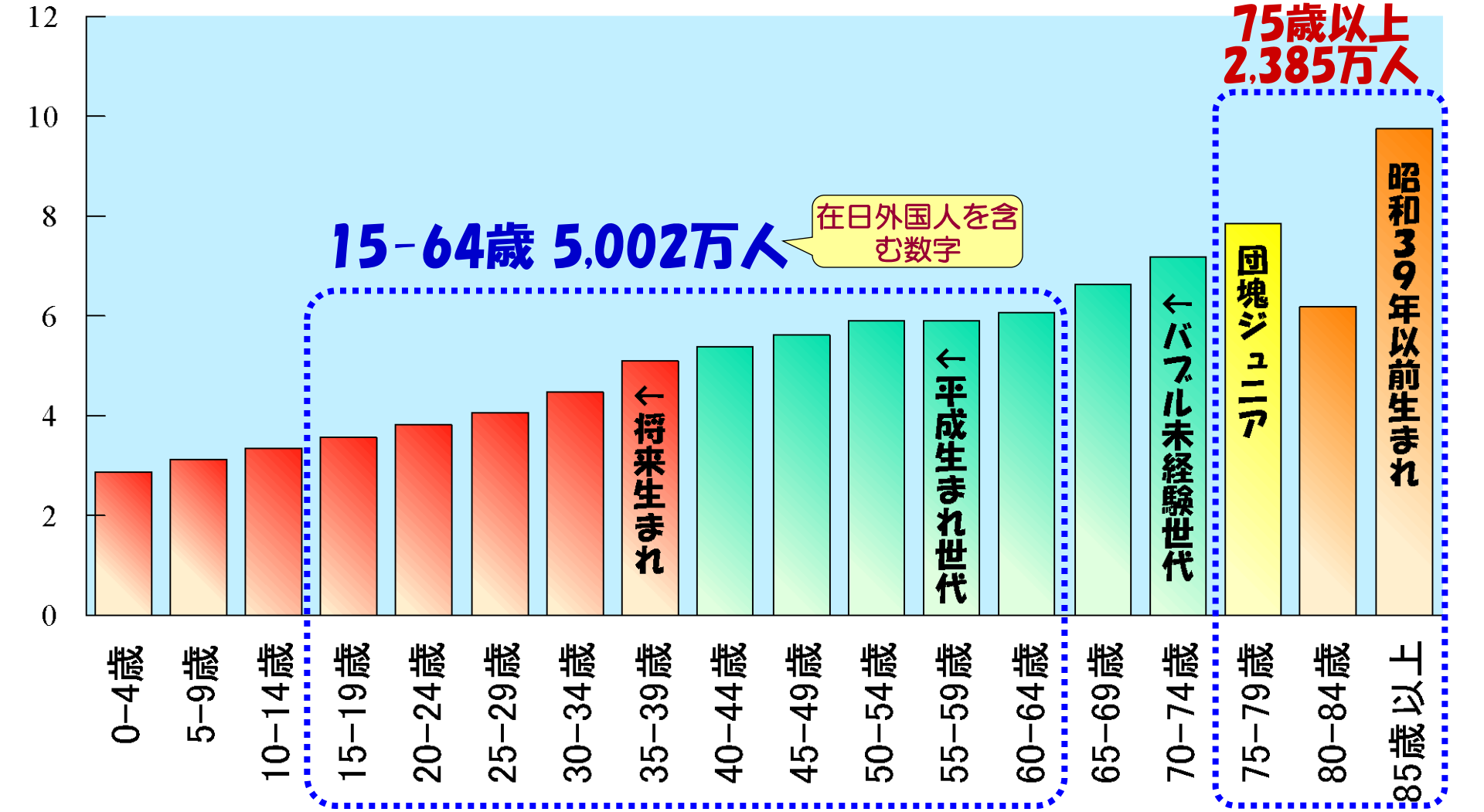
百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改



40年後の日本在住者

何歳の人口が多くなるのか：2050＝40年後

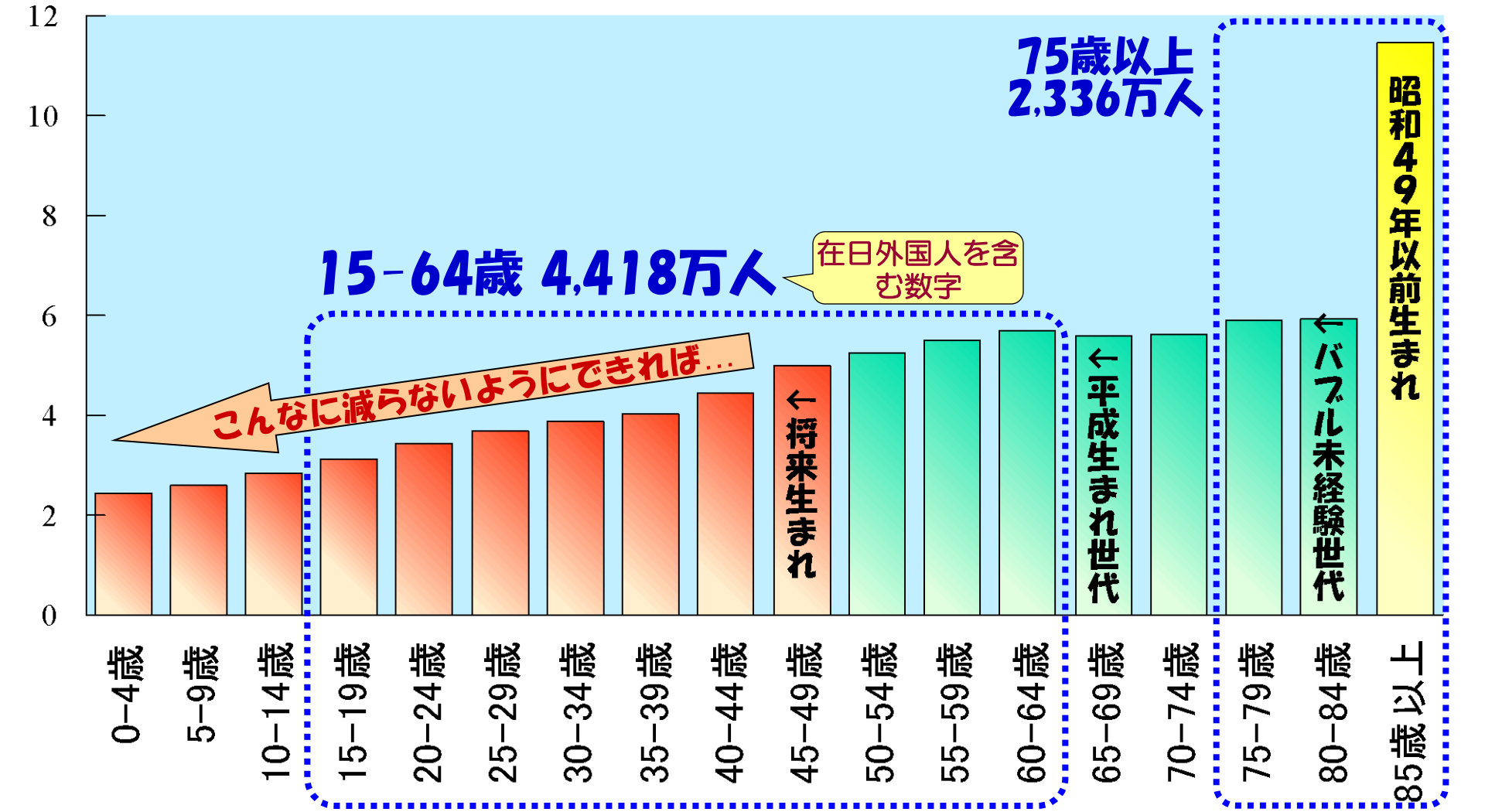


50年後の日本在住者

何歳の人口が多くなるのか：2060＝50年後

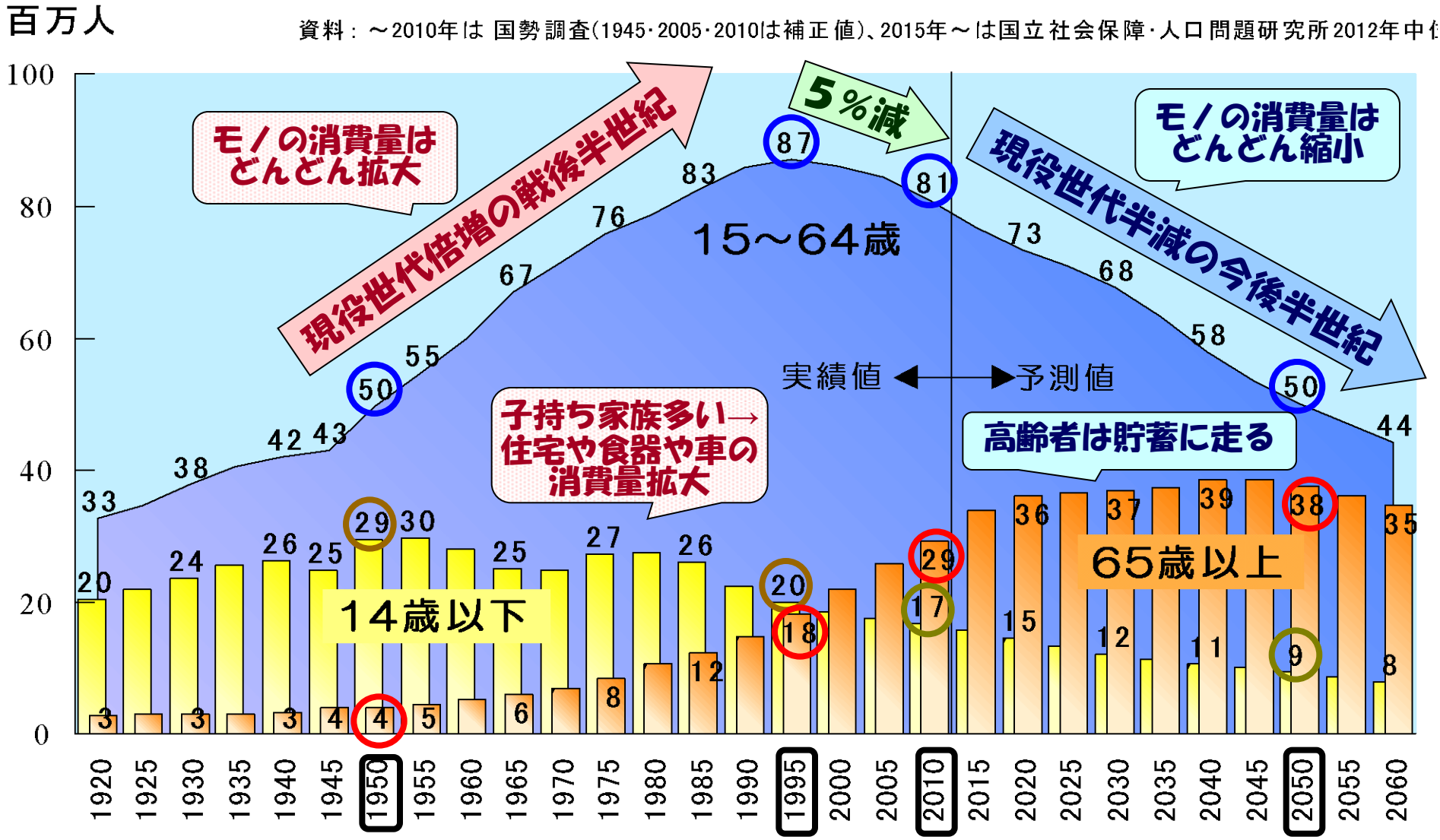
百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改

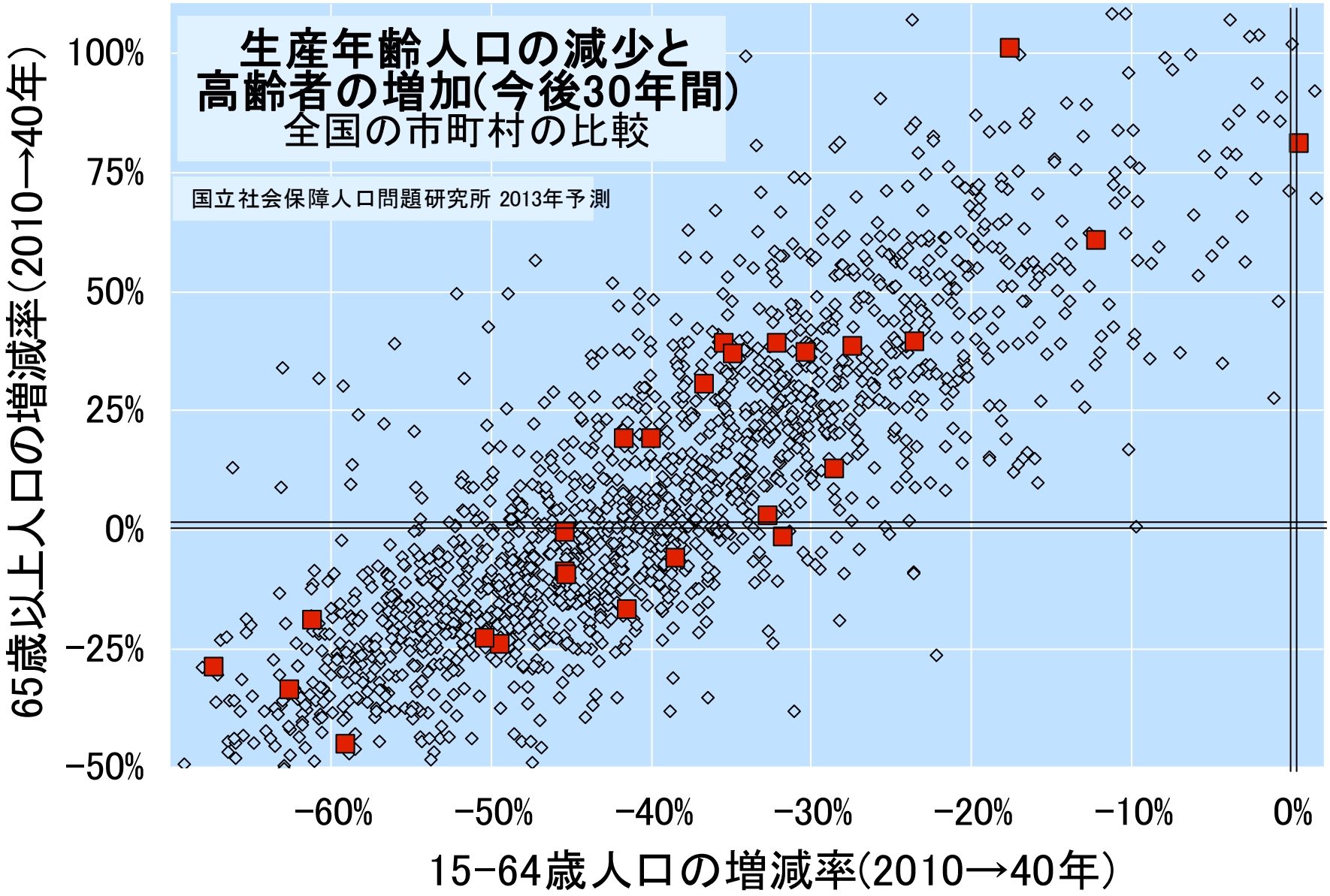


逆落としに減っていく現役世代

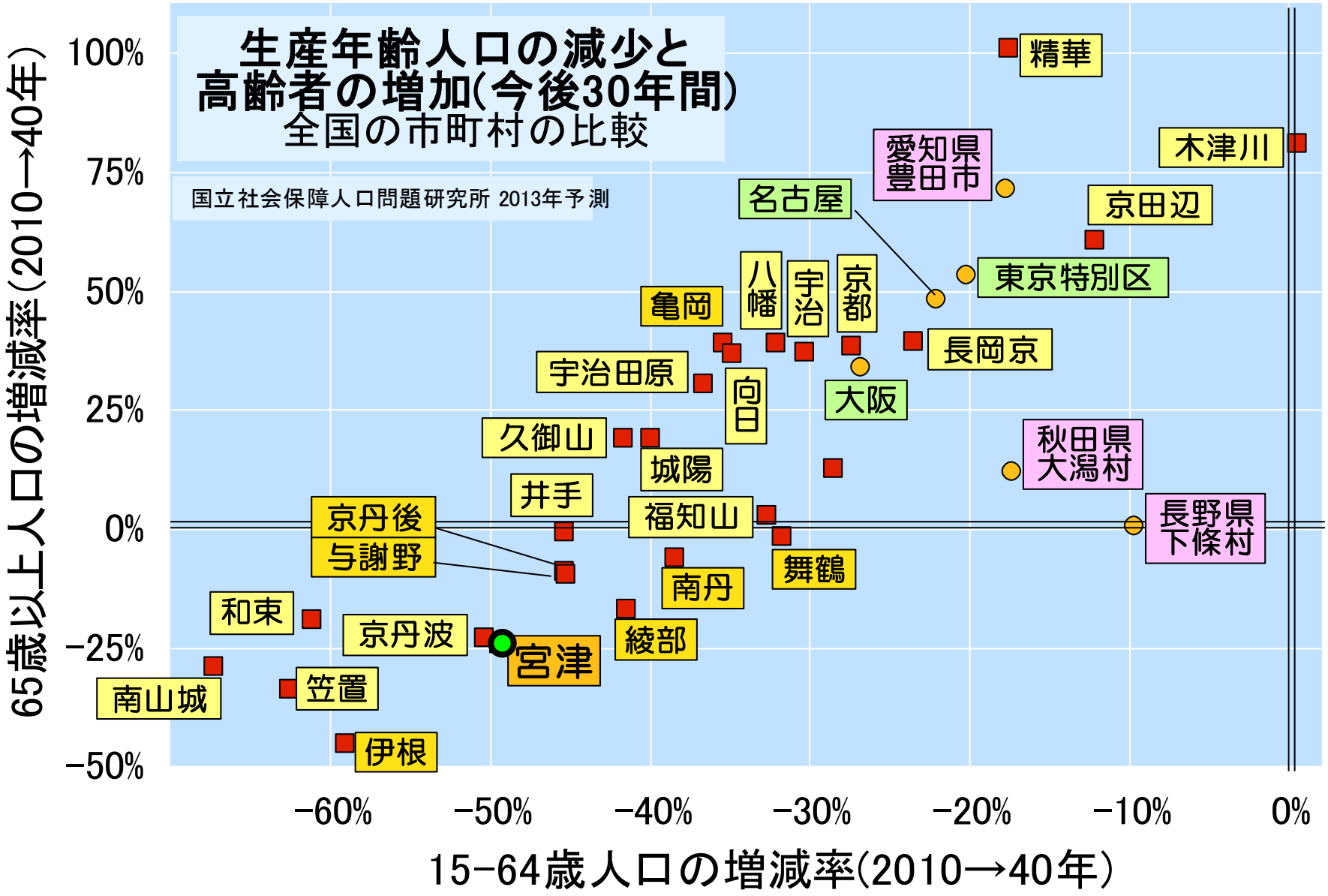
年齢階層別にみた日本の在住者数（1920-2060）



現役世代の減少と高齢者の増加

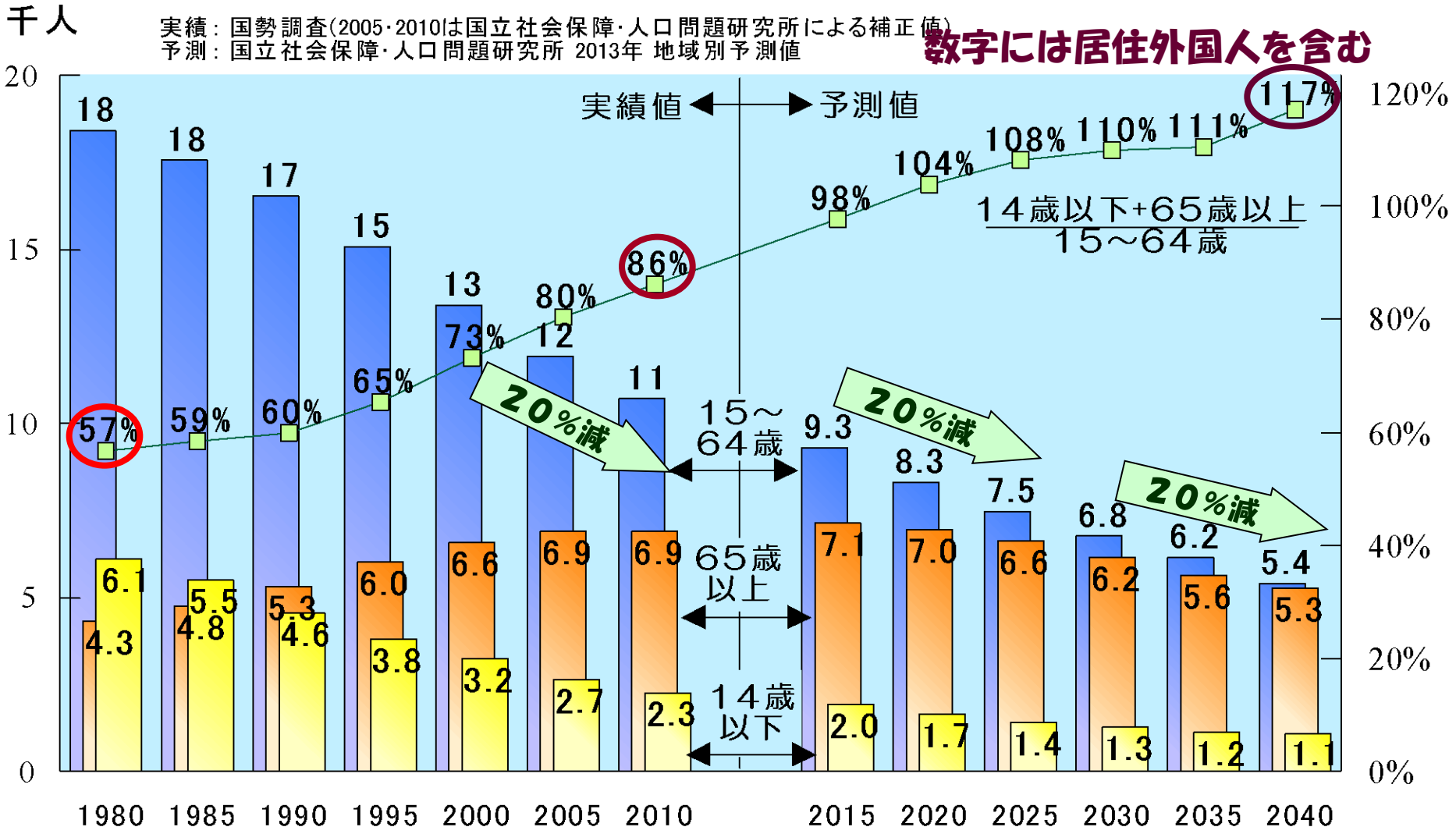


現役世代の減少と高齢者の増加



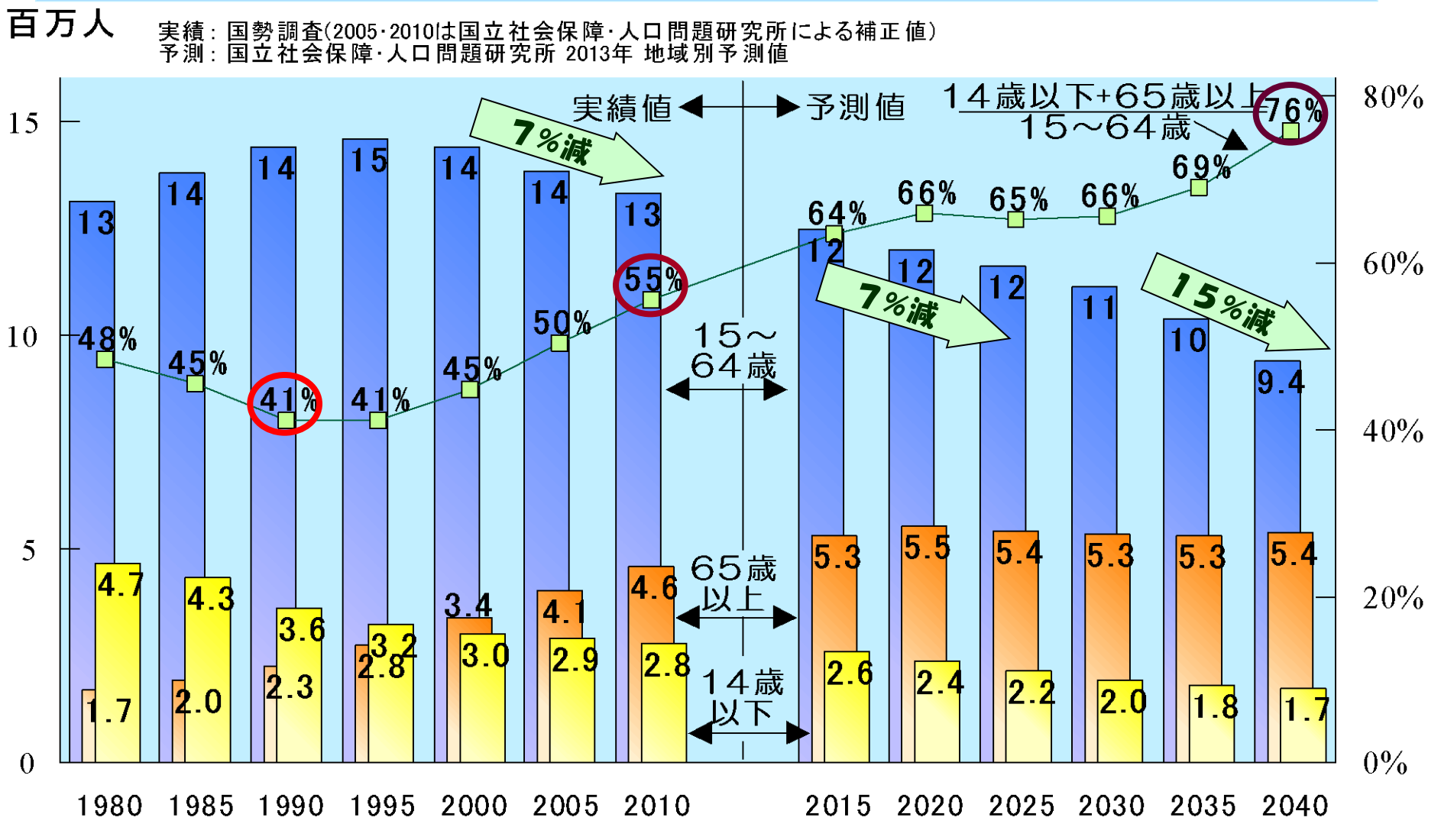
高齢者も現役も減る宮津市

年齢階層別にみた宮津市の在住者数（1980-2040）



現役が減り続ける関西圏

年齢階層別にみた関西二府四県の在住者数（1980-2040



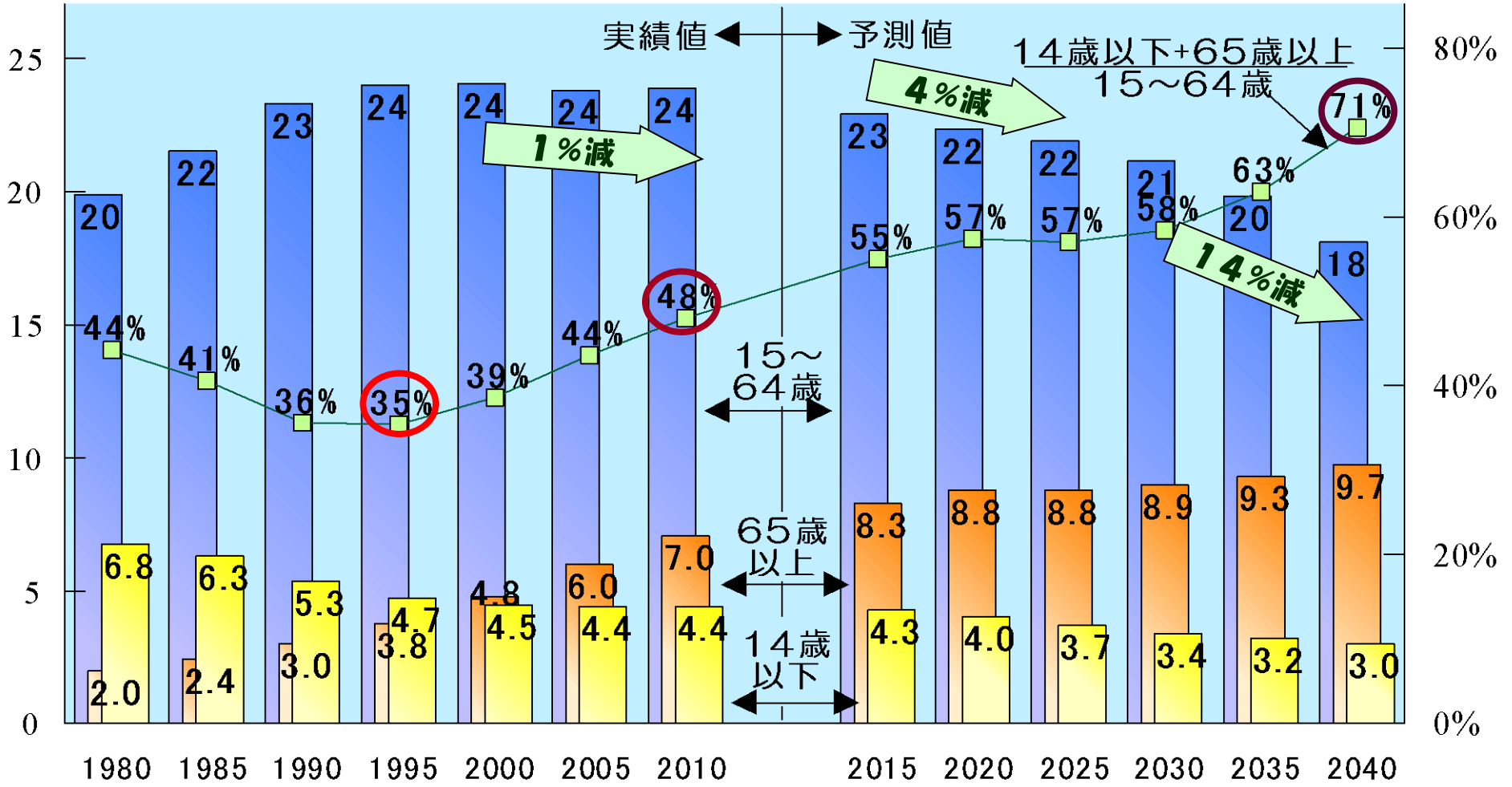
高齢者が増え現役は減る首都圏

年齢階層別にみた首都圏一都三県の在住者数（1980-204

百万人

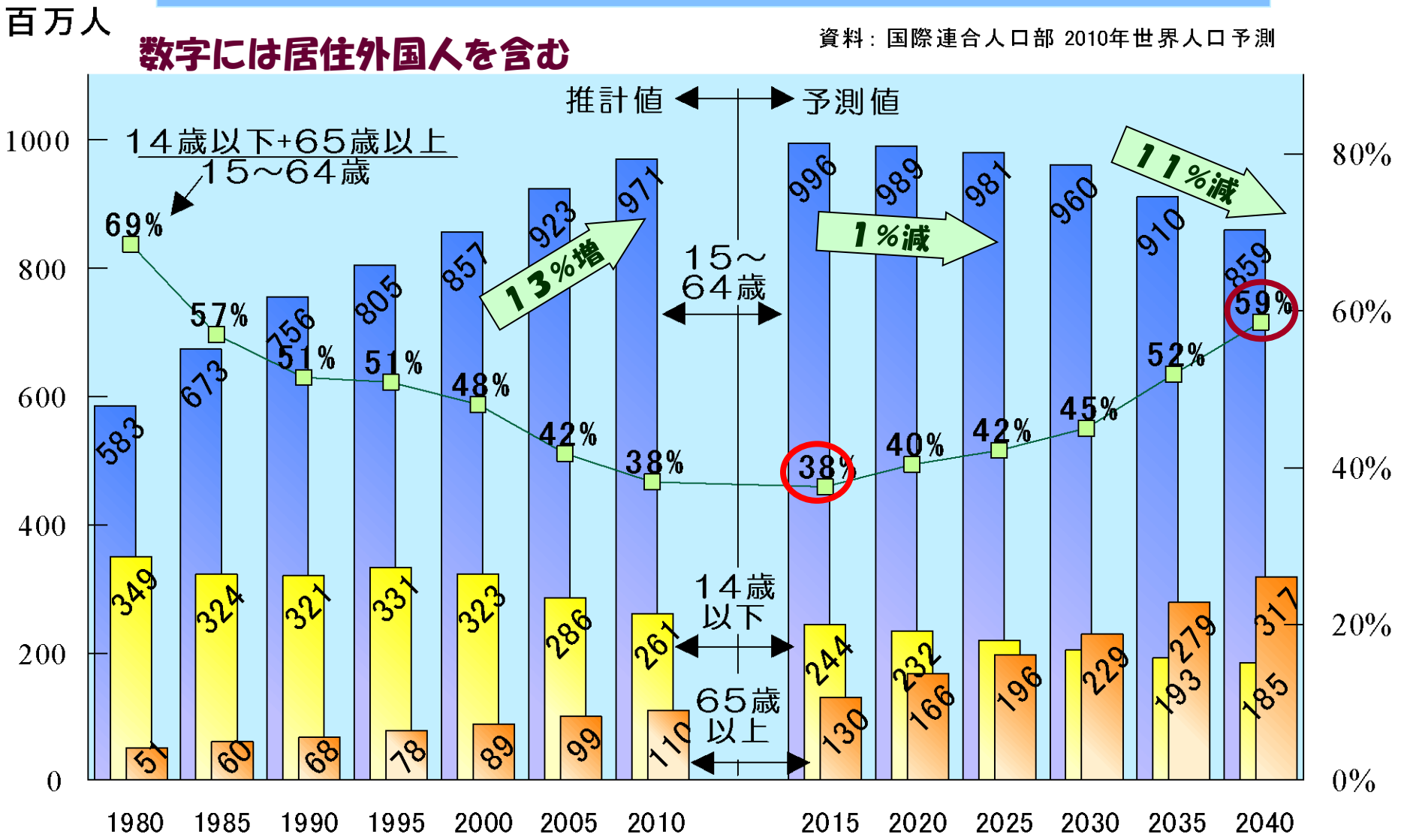
実績：国勢調査(2005･2010は国立社会保障･人口問題研究所による補正値)
予測：国立社会保障･人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



高齢者が増え現役は減る中国

年齢階層別にみた中国の在住者数（1980-2040）



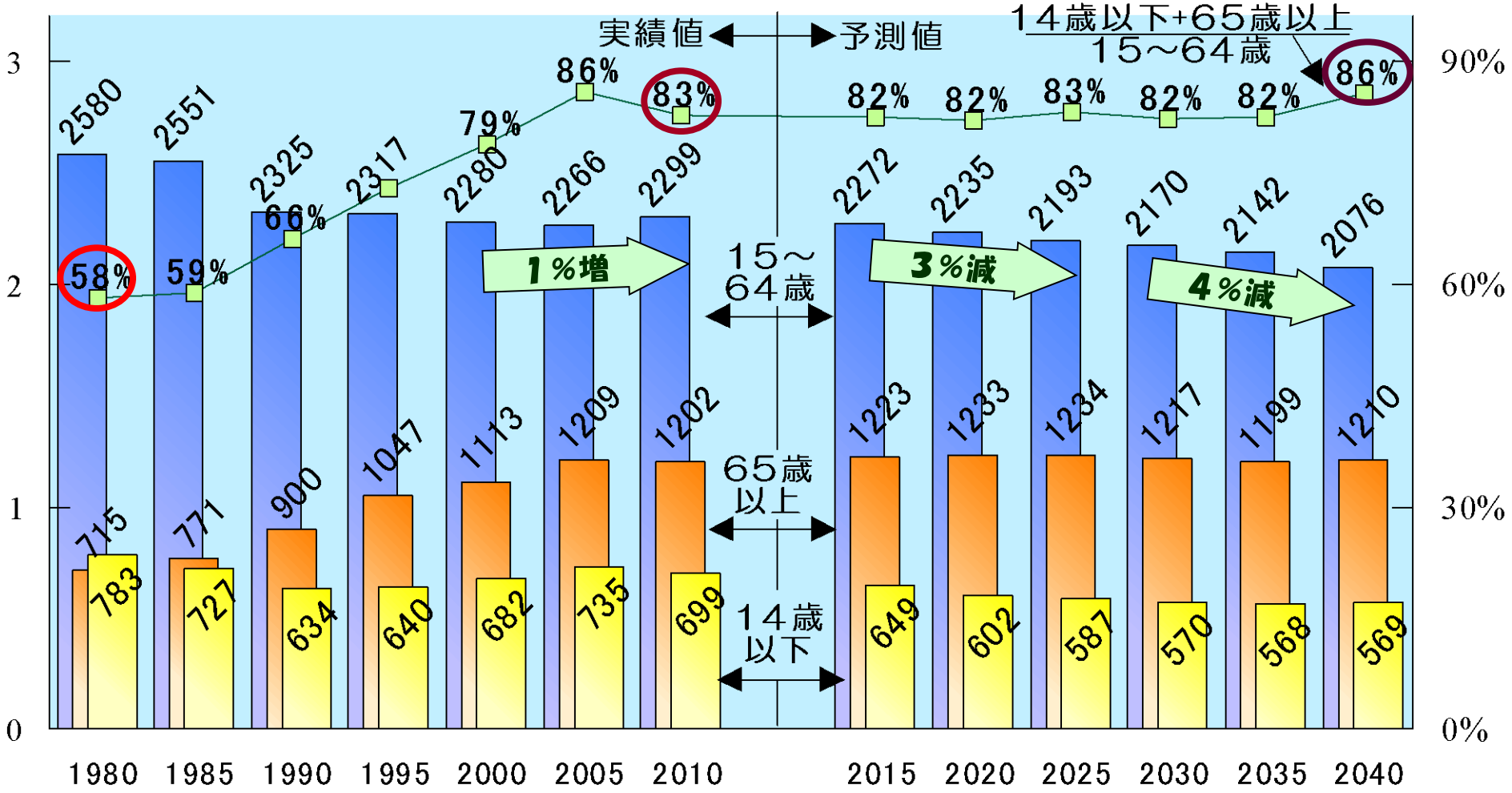
安定を実現した長野県下條村

年齢階層別にみた長野県下條村の在住者数（1980-2040

千人

実績：国勢調査(2005･2010は国立社会保障･人口問題研究所による補正値)
予測：国立社会保障･人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



止められないこと・できること

× 止められないこと

→ 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと

→ (多くの)若者が地域外に就職して出て行くこと

△ 止められること

→ 出生率の低下はやり方次第で止められる

→ 当地で育ち就職時に出て行った若者が、出て行ったきりとなることも、工夫次第で止められる

○ むしろ前向きにできること

→ 子育てしながら働く若い世代を呼び込める

→ 無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる

→ 来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる

“里山資本主義”とは何か？

「マネー資本主義」の欠陥を補うサブシステム（保険）
“善意と資源とお金の循環”で、安心・安全を増やす

！ 里山や離島に眠る、金銭換算すると無価値の資源
①耕作放棄地、②立木、③半端モノ農産品、④退職者、⑤野獣…

！ でもこれを資本として活かすと、水と食料と燃料が一定程度自給できる（←農林漁業地域では常識ですが…）
①生活費を減らせる、②エネルギー自給率が高まる、③捨てていたものが、場合によっては高額で売れる / あるいは物々交換できる

！ さらには成熟社会の安心・安全を増す効果も！
④元気な高齢者が増える、⑤若夫婦の田舎移住が子供を増やす、⑥周囲と絆を持つ人間が増える、⑦マネー資本主義の機能不全に対して、ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟを得ることができ、天災時等に効果を発揮する

欲求７段階（2×3＋1）説（藻谷説）

かけがえのない人生への欲求

自他の比較にこだわらず、自分に自然体で満ち足り、その上で他者と自然体で認め合いたいとの欲求

点数化できる優越ではなく、比較できないかけがえのなさ(=代りがいない自分、代わりがいない相手、満ち足りた人間関係)を目指す欲求

⇒ 他者との交わり、他者からの絶対評価なしでは達成できない

“個体”としての欲求

個我確立欲求

自然や社会に対峙する確固とした自分を確立したいという欲求

お守り欲求

シンボル(小物/衣服など)を身に着けることで己を補強したいという欲求

生存欲求

食べて生きて生殖したいという最も本能的･基本的な欲求

人間関係の中での欲求

優劣がつく指標での優越欲求

金･地位･学歴など、優劣がつく(と思われている)指標で勝りたいとの欲求

被認知欲求

属した集団のメンバーに己の存在を気づかせたいとの欲求

帰属欲求

何かの集団に属したい仲間に紛れ込みたいという欲求

マネー資本主義と里山資本主義

	マネー資本主義	里山資本主義
動機	優越欲求	かけがえのない人生への欲求
目標	所持金の額で他に優越すべく 際限なく稼ぎ、蓄財する	代わりのいない自分を生きる ＝ 他者/過去/未来と共生する
戦略	粗暴バージョン： 他者/他集団から搾取する	素朴バージョン： 自給自足する
	知能バージョン： 未来/次世代から搾取する ←簿外資産を浪費して蓄財する (地下資源、水、土壌、大気、子供、絆...) ←借金や汚染物質を後世に残す	成熟バージョン： 循環・再生が可能な範囲で ほどほどに稼ぎ、楽しむ ← 使ったものは元に返す ← ｲｿﾌﾗと清浄な環境を残す
手法	等価交換 / 金融投資 自由競争 / リスクの個人化	物々交換・贈与 / 実物投資 協働 / リスクの社会化

限界!マネー資本主義:「簿外資産」の消費

- 簿外資産①化石燃料: 長期的に不足し、値上がりへ
- 簿外資産② 土壌と水と大気:
  - ← 土壌・地下水収奪型の大規模低価格農法が世界制覇
  - ← 農薬などの化学物質による汚染も年々深刻化
  - ← CO_2の増加 ← 浮遊物質の増大 ← 放射能汚染
- 簿外資産③子供:
  - ← 子育てを犠牲にした経済成長が東アジア中で進展中
  - ← 戦後日本の「家に帰らない企業戦士」はその最初の例
    (企業戦士+専業主婦の増大で日本の出生率は激的に低下)
- 簿外資産④ 治安や道徳などのソーシャルインフラ
  - ← すべてを自由市場での取引にした結果、絆が崩壊
  - ← 生み出した価値＜交換で手に入れた金銭 という人の方が、稼がない人より偉い、という腐った通念の普及

里山資本主義的なこれからの価値観

旧： 人の生は、徒党(国/企業/部族)を組んで有限な価値(燃料/食料/地位/金)を奪い合う競争であり、有利な徒党に属した人間が勝ち残る

新：以下の3種類の指向への分化が進む

① 優越追求者：比較可能な指標での"優越"をひたすら目指す（地位の亡者、資格マニア、貯金道老人など）

② 個我確立追求者：他者攻撃や自己主張に浸る

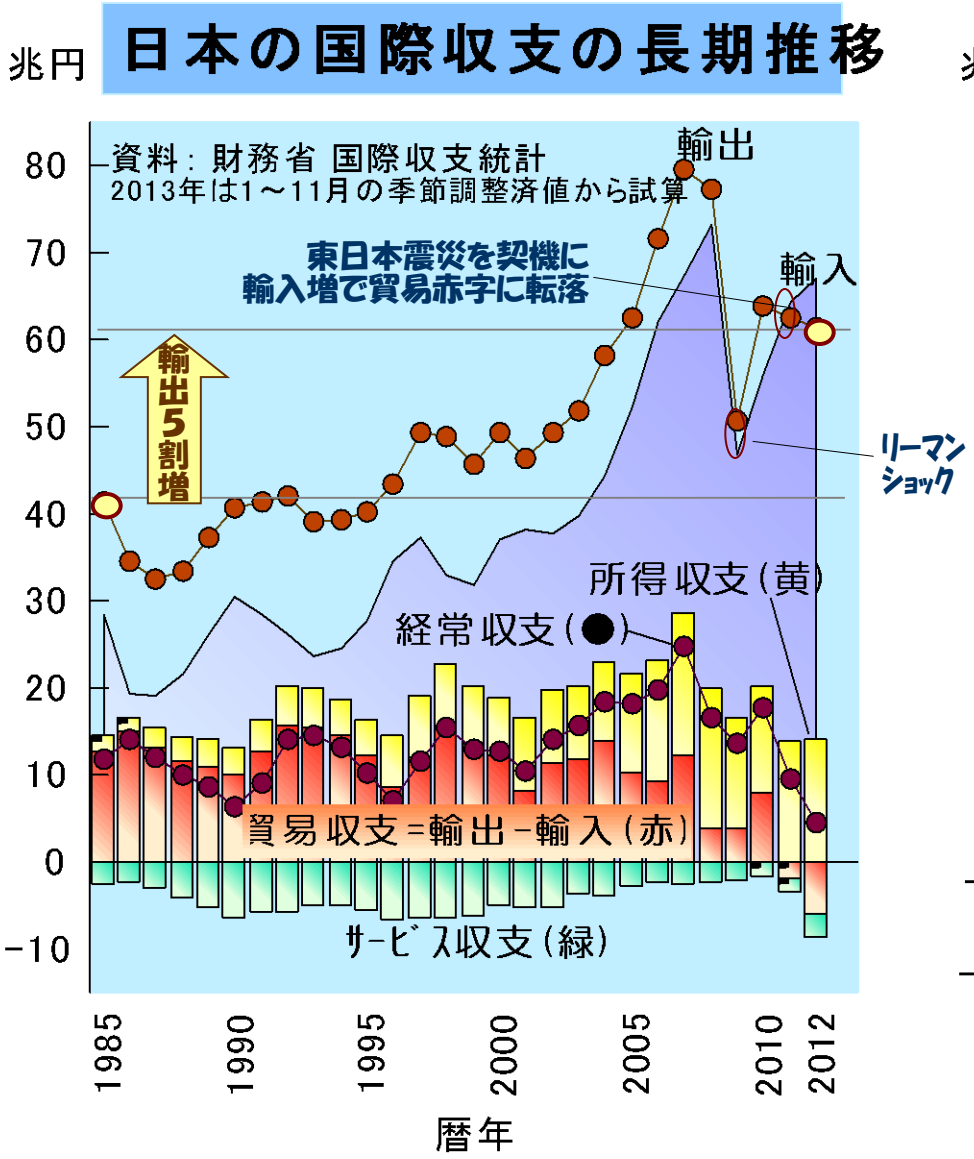
③ かけがえのなさ追求者：かけがえのない人たちとの人間関係の中で、かけがえない自分を生きる（＝己の欲するところに従いて則を超えず）

旧： 人にとっての価値は、すべて貨幣に換算できる（金で買えぬものはない）

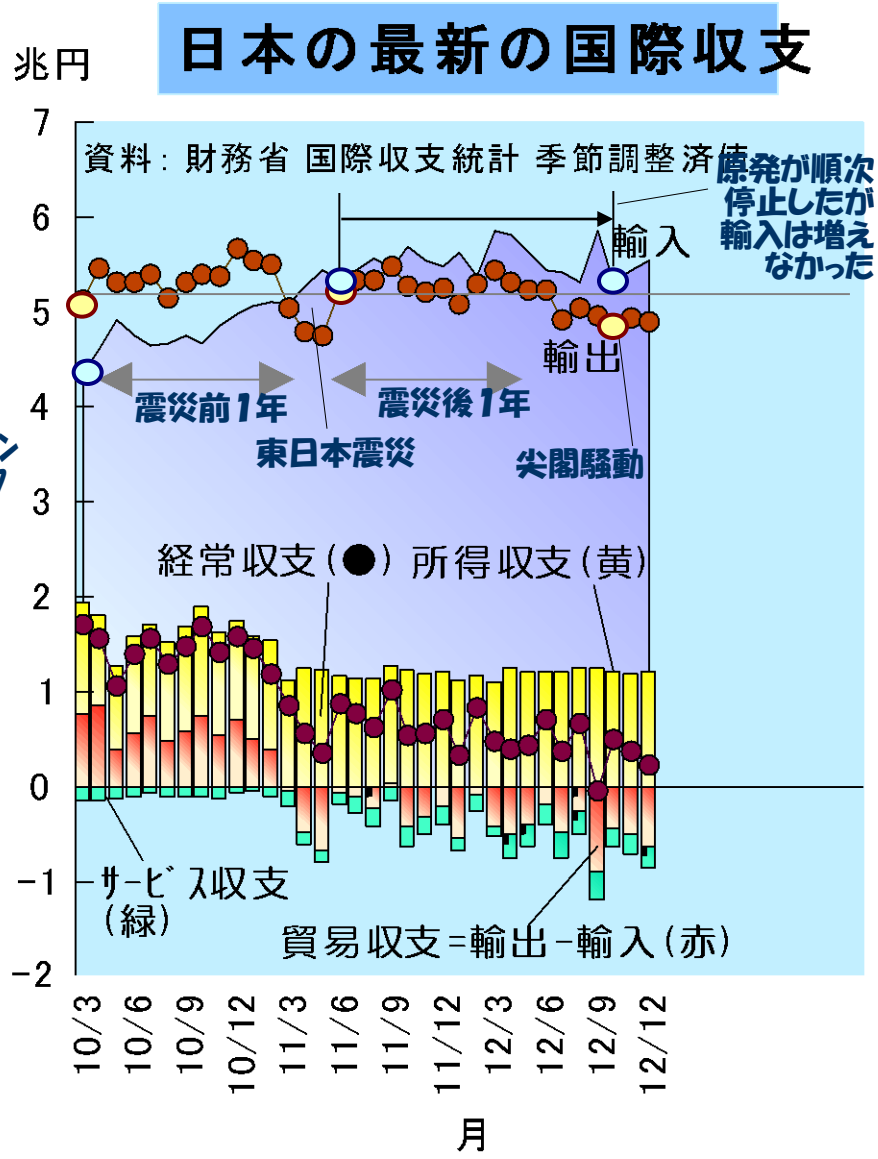
新：貨幣と交換できない"かけがえのない人間関係"を構築することで、長い人生終盤の充足があり、生きた証が得られる（貨幣に交換できない自分になれる）

アベノミクスまでの国際収支

日本の国際収支の長期推移

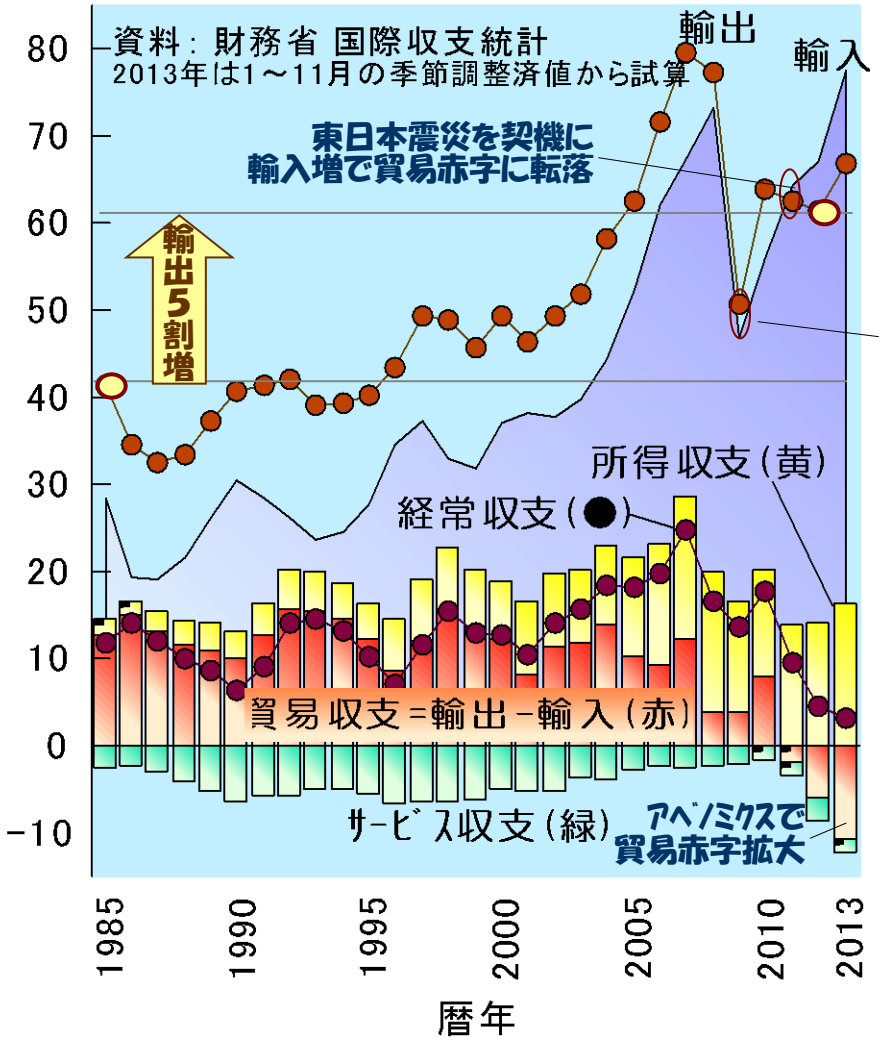


日本の最新の国際収支

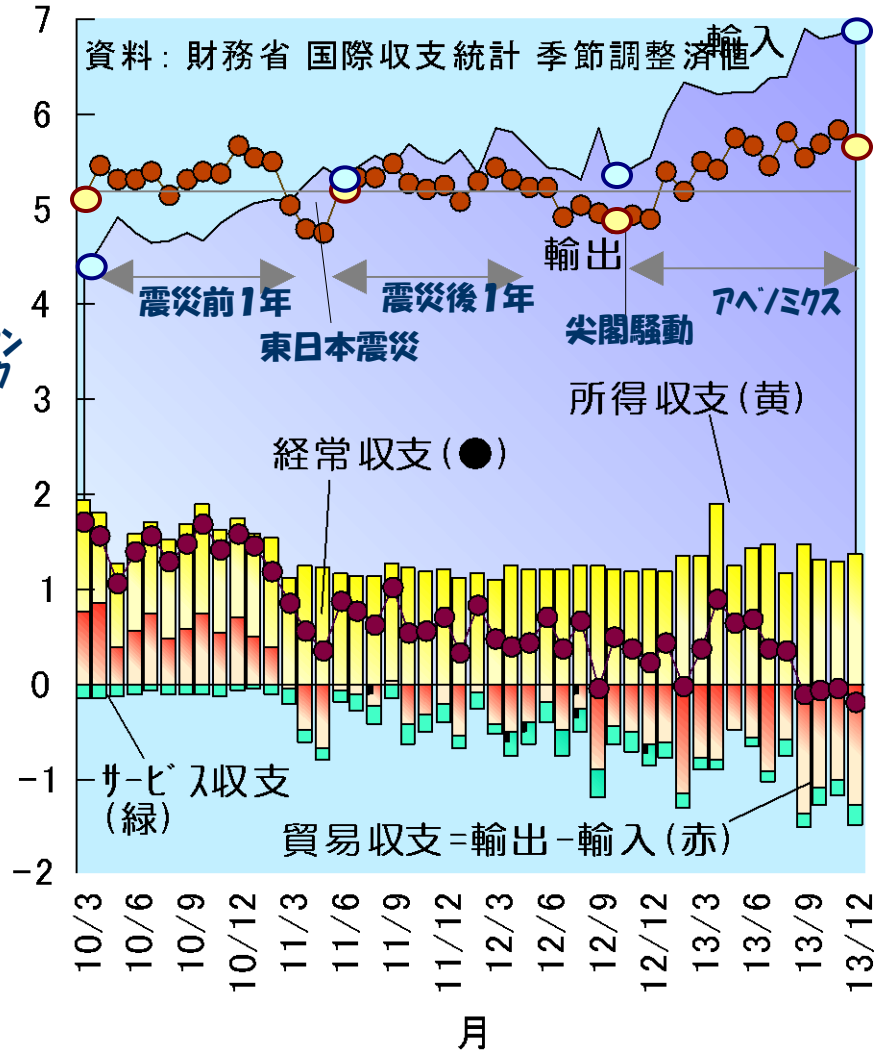


円安で輸入額激増→赤字定着

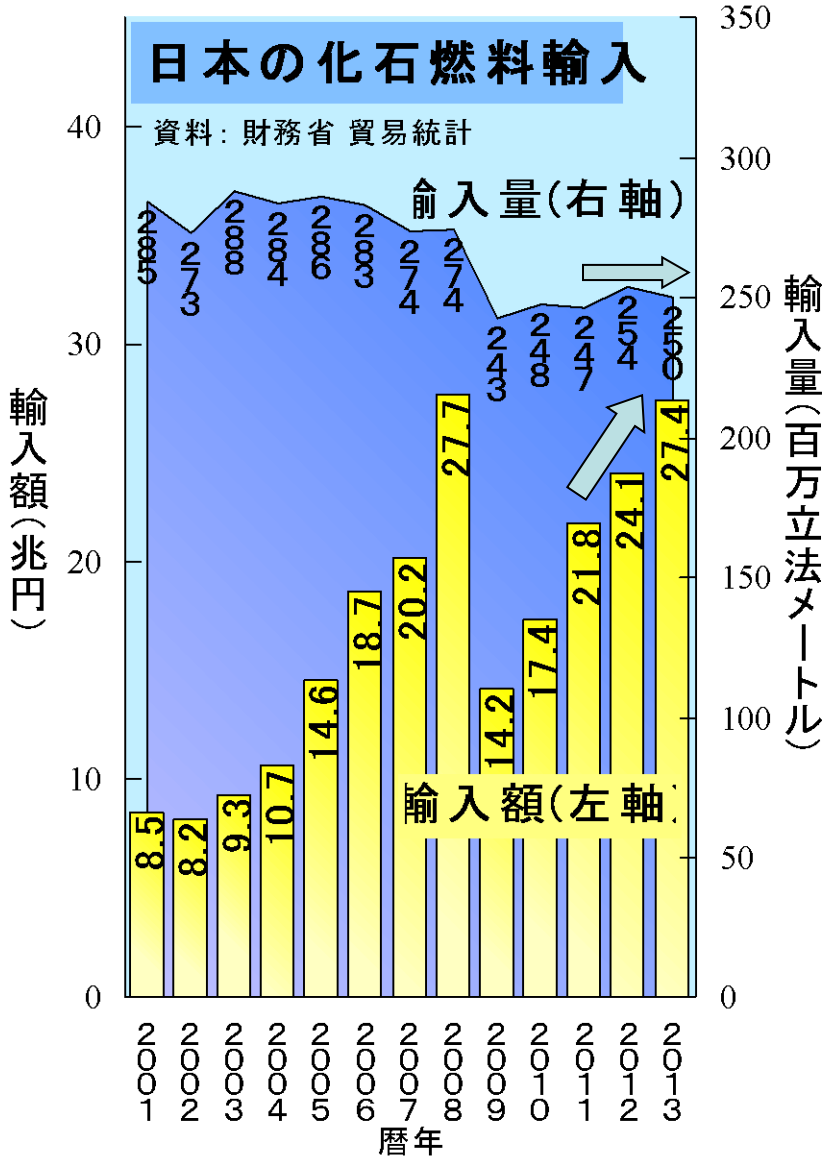
日本の国際収支の長期推移

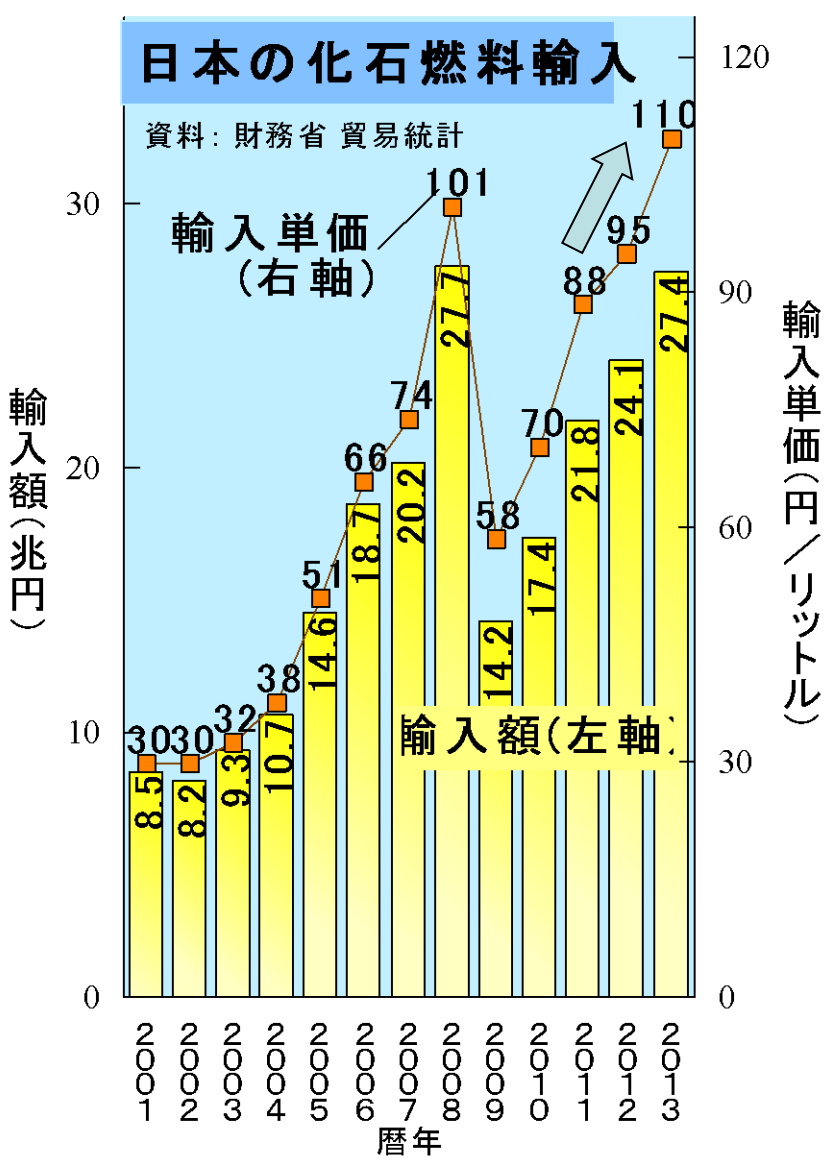


日本の最新の国際収支

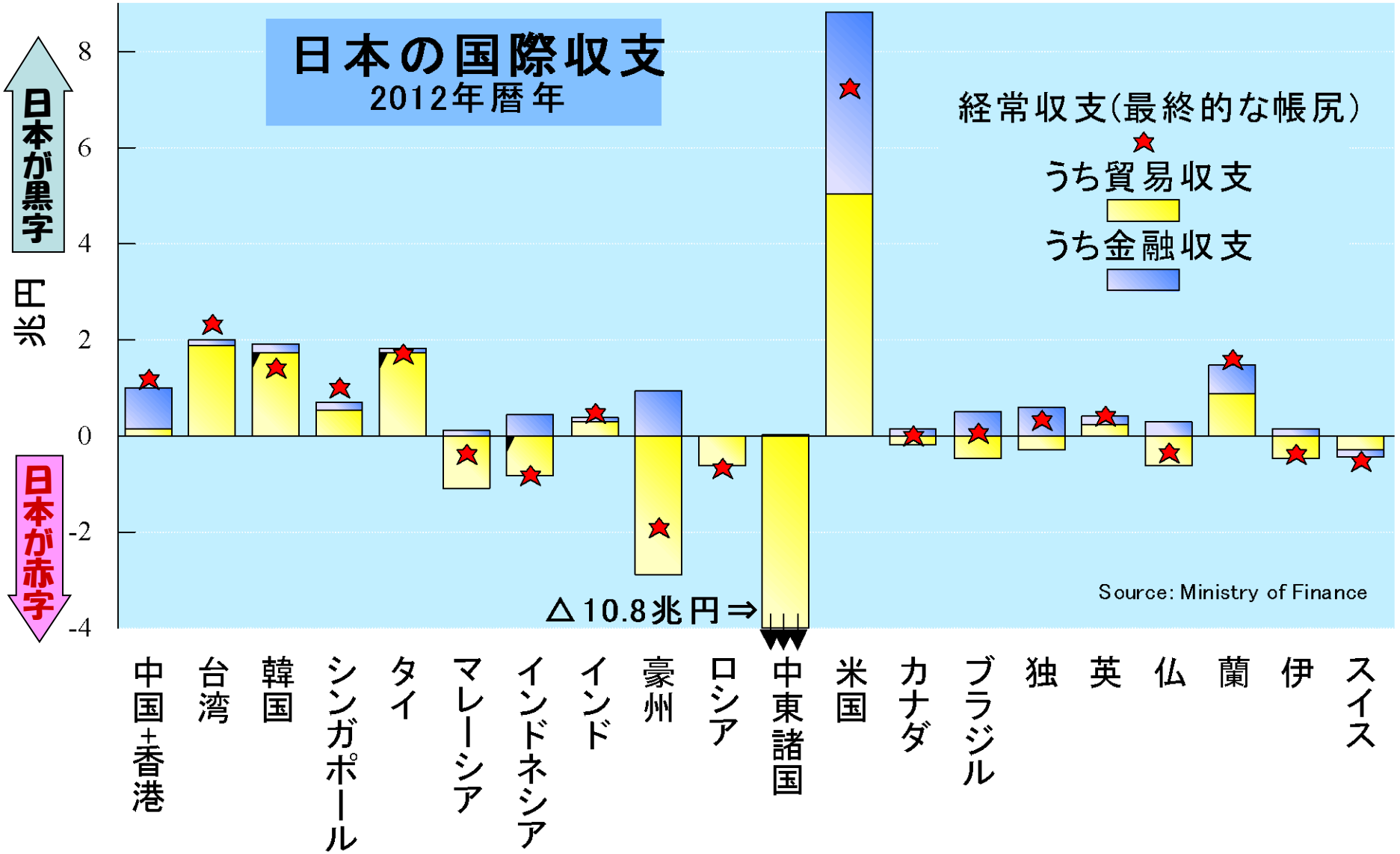


化石燃料輸入額増加の原因は原発停止ではなく、輸入単価の上昇





米中韓台から稼ぎ化石燃料を買う



日本の「国際競争」の現実

× 日本の国際競争力は、バブル崩壊以降低下の一途。

→ 日本の輸出額は、震災・超円高・ユーロショックの昨年でも、バブル期の1.5倍以上の高水準。

× 日本はアジア新興国との競争に負けている。

→ 中国(+香港)、韓国、インド、台湾、シンガポール、米国等に対し、日本は貿易黒字+経常収支黒字。

× 円安に戻れば輸出が増えて、日本経済は再生する。

→ 輸入燃料の高騰で、日本の貿易は逆ザヤ。

→ 輸出(=売上)が増えれば増えるほど赤字が増大。

→ 円安に戻れば、燃料代増加で赤字がなお拡大。

行き詰まったのは「低価格品大量生産」路線。

実践① 木の燃料利用

きっかけは技術革新：

- ！ 石油缶を再生利用した手作りのエコストーブ
  - → 少量の木切れを完全燃焼させて、おいしく煮炊き＋暖房。
  - → 広島県庄原市の和田さん(過疎を逆手に取る会)の仲間が発明。
- ！ 木質バイオマスペレットによる発電
  - → 集成材工場の副産物(産業廃棄物)である木屑をペレットに成型し、専用ボイラーで燃やすと、極めて高効率の発電が実現
  - → 集成材工場があれば、灯油や重油よりコストも何割か低くなる

技術は既にあるが、課題は：

- ！ 日本では生コン・鉄骨・新建材が全盛：頑丈で火にも強い集成材建築がなかなか普及せず、木屑がない
- ！ 建築基準法・消防法などの規制が時代遅れ
- ！ 国産材は高価(？)で、集成材の原料は専ら外国産材…

林業先進国（中欧の）オーストリア

日本より豊かな中欧の小国：

- ！ 人口は東北6県程度、一人当たり所得は1.5倍
  - → 天然資源もないアルプスの山国だが、日本より豊か
  - → 日本に対しても貿易黒字（スワロフスキーのガラス工芸が有名）
- ！ 過去10年ほどで林業大国になった
  - → 年間で自然に再生される森林資源の70％を利用
  - → 木は集成材に加工し、低層・中層建築は木造が当たり前に
  - → 年間に4～5000億円の木材資源を輸出し、外貨を稼ぐ
  - → 林業は収入の高い職業として若者に人気
- ！ 自然エネルギー大国
  - → エネルギーの3割弱が自然エネルギーで自給されている
  - → 原発を作ったが稼動前に廃止し、現在は憲法で原子力を禁止
  - → 木屑を使った木質ペレットの利用が普及、価格も石油の半分

実践② 耕作放棄地の再利用

耕作放棄地は無用の土地なのか：

- ！ 先人による多年の土作りにより、肥えた土がある
- ！ 先人による給水システム造りにより、水もある
  ← しかし多くが狭い棚田で、大規模経営に向かず、担い手は引退

始まっている新たな取り組み（NHK広島制作の番組の中から）：

- ！ 島根県邑南(おおなん)町「味蔵」「耕すシェフ」←肉と野菜
- ！ 鳥取県八頭町「ホンモロコ養殖」←淡水魚
- ！ 島根県石見山中「州濱さんの牛乳」←牛の放し飼い
- ！ 山口県周防大島町「ジャムズガーデン」←果実
- ！ 広島県尾道市「おへそカフェ」←麦「尾道帆布」←綿
- ！ 広島県庄原市「優輝(ゆうしゃいん)グループ」←半端モノ野菜

実践③ 町の住民にもできること

最も簡単なこと：

- ！ エコストーブを入手し、水源を確保する（井戸など）
- ！ 自営の店で買い物し、経営者と仲良くなっておく
- ！ 特定の田舎に通って産品を買い、絆を作っておく

もう少し進めば：

- ！ 庭や空き地で農耕し、自家消費／物々交換する
- ！ 特定の田舎に田畑／セカンドハウスをつくる

最後には：

- ！ 好みの田舎に移住する／季節ごとに転々とする

里山資本主義はサブシステムなので、マネー資本主義と、お好きな比率でブレンドして実践可能！

国際競争を闘う！里山資本主義

× 里山で「半農半X」で暮らすなんて、国際競争からの逃避だ！

○ 日本の貿易赤字の原因は、年間20兆円を越える化石燃料代 → 木を燃やせば、赤字が減る！

○ 食糧輸入は年間5兆円程度だが、農産物を家庭菜園で自給している人はこの削減にも貢献！

× 里山にひきこもるなんて、国際人の対極のような生き方だ！

○ 「里山を食い物にして生きている」タイプの活動的な人は、人脈も行動範囲もむしろ国際的！

○ 人と自然が交わる里山は、日本にしかない資源として、世界の観光客をひきつけ始めている

東京こそ、公共投資の還流で生き延びてきた内向き原理の町。東京人こそ国際競争をしろ！

近代経済学に挑戦する里山資本主義

GDP至上主義 vs 金銭換算できない価値(＝簿外資産)の再評価:

- ！ エネルギー自給促進→GDPは減少/域際収支改善
- ！ 食糧自給(+物々交換)促進→GDPは減少/高齢者の生活不安減・健康増進/天災時の「靭性」増加
- ！ 人の絆(ソーシャルインフラ)の強化、少子化への歯止め

規模の利益 vs 極小の経済:

- ！ 規模の利益に背を向けた多品種少量生産 → 単価アップ・輸送ロス減少・天災時の「靭性」増加

リカード的分業 vs 一人多役:

- ！ 少人数の臨機応変な一人多役で高効率を実現
  (コンビニなどのバイトにも同じような原理が…)

里山資本主義と経済学は弁証法的止揚へ向かう。

「里山資本主義」的地域活性化を

① 安さでは勝負せず高品質の商品で外貨獲得：

当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外から稼ぐ(=「いま」「ここ」にしかないものを売る)。

② 稼いだお金をもっと地域内でぐるぐる回す：

地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い倒し（外からの安物は使わない）、未就労女性や障碍者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励する。

③ 外から買うより地元産のエネルギーを活用：

地域内の建築物には地元産木材を使い、木屑の燃料利用を進める。小水力・風力・地熱を余さず使う。